

雨にもまげず

作：宮沢賢治

雨にもまげず

風にもまげず

雪にも夏の暑さにもまげぬ

丈夫ながらだをもち

欲はなく

決しておこらず

いつもしづかにわらっている

一日に玄米四合と

みそと少しの野菜をたべ

あらゆることを

じぶんをかんじょうに入れずに

よくみききしわかり

そしてわすれず

野原の松の林のかげの

小さなかやぶきの小屋にいて

東に病氣のこどもあれば

行ってかんびょうしてやり

西につかれた母あれば

行ってそのいねのたばをおい

南に死にそうな人あれば

行ってこわがらなくともいいといい

北にけんかやそしょうがあれば

つまらないからやめろといい
ひでりのときはなみだをながし
さむきのなつはオロオロあるき
みんなにデクノボーとよばれ
ほめられもせず
くにもされず
そういうものに
わたしはなりたい